

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

設立財団ニュースレター

Vol.26

2022年 5月20日発行



令和4年度から取り組む 新しい事業展開について

代表理事 田中 俊次

賛助会員の皆様、支援者、協力者・協力関係機関の皆様には日頃より当財団の活動にご理解、ご支援をいただいていることに厚くお礼申し上げます。

野生生物と人との真の共存を実現する人材養成のための高等教育機関を実現すべく、当財団がスタートして9年余りが経ちました。この間、人材養成に必要な教育プログラム・カリキュラムの策定や教育体制の検討を行い、具体的教育実践活動としての知床ネイチャーキャンパスの開催や、人材養成の必要性を広く知っていただくためのフォーラム開催や広

報活動などを展開して参りました。

一方、高等教育機関設立のための施設設置や教育体制確立に必要な資金の獲得には未だ至っておりません。そんな中で、今全国で野生動物と人に関わる問題が頻発しており、問題解決に当たる専門職員の配置が急務になっています。

このような情勢を踏まえ、急がれるのは具体的な人材養成活動そのものであり、施設設置に頼ることなく実施が可能な人材養成体制の実現です。昨年来、理事会で検討して参りました結果、当初からの

目的である「大学院に相当する高等教育機関」の実現を将来に見据えながらも、第一段階の実現目標として、これまで継続してきました「知床ネイチャーキャンパス」を核とした、実践的な教育活動の実現を目指すこととなりました。これまでの知床ネイチャーキャンパスでいただきました講師や現地指導の協力、実習フィールドや会場施設の協力を今後も得ながら、以下に説明する活動を進める計画です。早

期に実践的な教育活動を展開したく、皆様方のご理解をいただければ幸いです。

これらの新しい活動展開には言うまでもなく十分な活動資金が必要です。理事会では一丸となって資金獲得に取り組んでおりますが、皆様の暖かいご支援を今後も賜りますよう、よろしくお願いいたします。

『これまで』 と 『新しい展開』

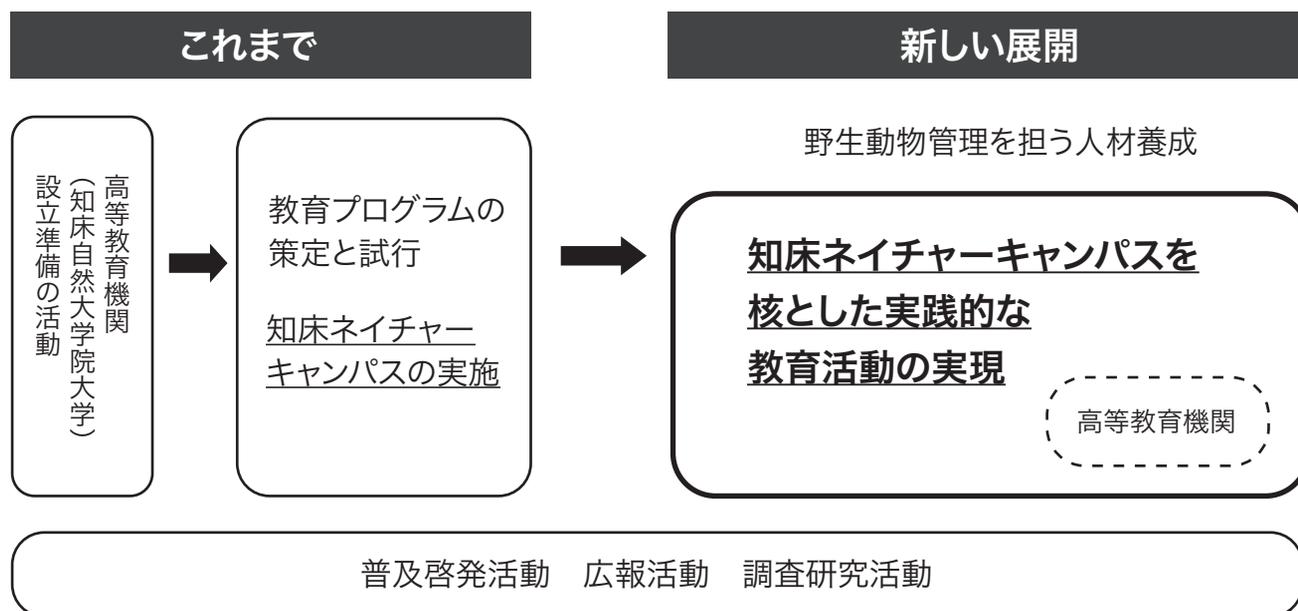
社会背景

野生動物と人をめぐる現状

農林業や漁業被害、国土の荒廃都市への侵入、住民生活への影響
生物多様性保全への認識の高まり

問題解決のための人材養成が急務

野生生物保護管理を学んだ専門家を数多く養成し、全国各地で問題解決にあたるのが急がれている。



新展開の背景

★ 教育事業展開の実現性

2016年～21年に講義、実習・演習、グループワークを組み合わせた知床ネイチャーキャンパスを開催。受講生ニーズの把握、教育プログラムの試行と内容確立、専門家・関係機関との協力関係構築などを進め、実践的教育事業展開の可能性を確認しました。

★ 教育手法の進化

2019年の知床ネイチャーキャンパスよりオンライン講義を導入。その後の新型コロナウイルス感染拡大により、オンライン講義やセミナー、会議などが一般的になりました。現地実習に合わせ、ICT技術を最大限活用した新たな教育の可能性が格段に広がりました。

これまでの実績

知床ネイチャーキャンパス

	大学生	大学院生	社会人	参加者数	
2016 (現地講義+実習演習)	3	5	14	22	
2017 (現地講義+実習演習)	9	2	9	20	
2018 (現地講義+実習演習)	16	7	1	24	
2019 (オンライン講義+実習演習)	19	3	2	24	
2020 (オンライン講義のみ)	18	4	4	26	
2021 (オンライントークセッション)	25	7	23	55	
2022 (オンライン講義+実習演習)	0	0	42	42	※2022はリカレント対象
計	90	28	95	213人	

学生の所属

北海道大学、酪農学園大学、帯広畜産大学、東北大学、宇都宮大学、新潟大学、東京農工大学、東京農業大学、上智大学、筑波大学、早稲田大学、帝京科学大学、立教大学、岐阜大学、北陸先端科学技術大学院大学、名古屋大学、香川大学、鹿児島大学

社会人の所属

環境省職員、林野庁職員、都道府県職員、市町村職員、環境コンサル会社職員、環境関連NPO法人職員、ネイチャーガイド、地域おこし協力隊、その他民間会社職員

フォーラムや講演会、研修など

	参加者数
2013. 3 知床の未来を語る夕べ 知床に高等教育機関を作ろう! (斜里町)	50
2014. 3 野生生物の「反乱」を食い止める (東京都)	90
2014.11 野生動物と共生する地域づくりを目指して(札幌市)	124
2015. 3 地域資源を生かしたまちづくり・人づくり(斜里町)	50
2015.10 野生生物保護管理の最新潮流~IWMC2015から見えてきたもの~(東京都)	150
2021.10 京都市立西京高校研修旅行コーディネート(斜里町)	42

2017~20 知床ネイチャートークを計12回実施 (斜里町)	500

1,006人

新しい展開

知床で野生生物保護管理を学ぶ 知床ネイチャーキャンパスを核とした実践的教育事業を行うこと

具体的に行う教育内容

野生動物管理の
基礎知識の付与

講義型授業

討議型授業

ケースメソッドによる
応用能力の向上

複合型プログラム 「知床ネイチャーキャンパス」

管理の現場を介した
理論と実践のすり合わせ

現地実習

現地演習

ワークショップを通じた
学習の総決算



プログラム計画(案): 学生・社会人向けの知床ネイチャーキャンパスの例

※さまざまなテーマを選択・組み合わせることによって、多種多様なプログラムを提供することができます

回(コマ)	日程	テーマ例	実施形態	会場	
第1回(1)	4月第2週	①ヒグマ管理	講義型授業×2	オンライン	
第2回(1)	4月第4週		ケースメソッド(討議)型授業×1	↓	
第3回(1)	5月第2週	②生態系復元	講義型授業×2		
第4回(1)	5月第4週		ケースメソッド(討議)型授業×1		
第5回(1)	6月第2週	③公園利用	講義型授業×2		
第6回(1)	6月第4週		ケースメソッド(討議)型授業×1		
第7回(4)	7月第4週	④模擬計画策定	現地実習・演習		知床

長期的、継続的な知床ネイチャーキャンパス開催が可能となる体制を早期に構築し、
目標である野生生物保護管理分野の人材養成を行います

2022年度(令和4年度)の具体的事業計画

1 教育活動の実践と

知床型教育プログラムの策定
及び教育手法の開発

★ 知床ネイチャーキャンパスの開催

2022年6月に、社会人を対象とした「知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022」の現地実習・演習を開催します。

★ ケースメソッド型プログラムの開発と試行

現場で直面する課題を擬似体験する討議型授業を展開するため、受講生の教材となるケースメソッド型プログラムを開発し、「知床ネイチャーキャンパス・ケースにチャレンジ(仮)」を開催します。

★ 計画策定専門委員会の開催

事業の計画と評価は、計画策定専門委員会の意見に基づいて行うため、年2回程度開催します

★ 野生動物管理教育プログラム検討会への参加

環境省と農林水産省が事務局となり、専門家が核となって国レベルで進められている検討会に引き続き参画し、コア・カリキュラムの試行に参加します。

新しい展開を「知床ネイチャーキャンパスを核とした実践的教育事業を行うこと」とした上で、現時点での2022年度(令和4年度)事業は左記のようになります。

2月にオンライン講義を行った「知床ネイチャーキャンパス・リカレント 2022」の現地実習・演習を開催します。ネイチャーキャンパスにおける現地知床での実習・演習は、2019年以来3年ぶりの開催になる予定です。

また目標としている具体的教育内容(4P参照)でお示しした「討議型授業」を展開するため、ケースメソッド型プログラムの開発に力を入れて取り組みます。ケースメソッドとは、実際に起きた出来事を物語化した「ケース教材」を使用し、討議を通じて学習する授業方法です。

その他引き続き、事業の評価や意見をいただく計画策定専門委員会を開催し、国レベルで進められている「野生動物管理教育プログラム検討会」に参加します。

また下記の普及啓発・広報事業にも継続して取り組みます。

2 教育活動の実践を通じた普及啓発と広報活動

- ★ 知床ネイチャーキャンパスの開催状況を公開
- ★ 知床ネイチャートークの開催
- ★ 地元と道外高校生を対象とした教育活動
- ★ 賛助会員や支援者(首都圏・道央圏)向けイベント開催

3 出版物やオンラインによる広報事業

- ★ 会報誌「設立財団ニュースレター」の発行
- ★ ホームページの充実
- ★ ブログ、SNSによる情報発信
- ★ 設立財団パンフレットの更新

■□■ 知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022 ■□■

オンライン講義を実施しました

当財団は2022年2月5日（土）、6日（日）、「知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022」のオンライン講義を実施しました。ネイチャーキャンパス初の社会人向けプログラムで、全国からさまざまな職種の42人が参加。知床が世界自然遺産登録にあたって取り入れた科学的保護管理について、10人の講師より、さまざまな角度からの講義・ディスカッションが行われました。詳しい講義内容などをご報告します。

現地実習・演習は6月11日（土）、12日（日）を予定し、すでに定員に達しています。

テーマ：科学的保護管理システムの構築と実践 -世界自然遺産地域の経験を全国へ-

開催月日：2022年2月5日（土）、6日（日）

開催方法：オンライン開催（Zoomを使用）

参加者：42名

講師（敬称略）：渡辺 綱男（自然環境研究センター上級研究員）
 渡邊 雄児（環境省釧路自然環境事務所ウトロ保護官事務所）
 桜井 泰憲（北海道大学名誉教授）
 松田 裕之（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）
 敷田 麻実（北陸先端科学技術大学院大学教授）
 宇野 裕之（東京農工大学大学院農学研究院特任教授）
 中村 太士（北海道大学大学院農学研究院教授）
 石名坂 豪（公益財団法人知床財団 主任研究員）
 秋葉 圭太（公益財団法人知床財団 公園事業推進プロジェクトリーダー）
 梶 光一（東京農工大学名誉教授）

プログラム日程

月日	時間帯	時間(分)	講義タイトル	講師
2月5日 (土)	13:00-13:10	10	主催者挨拶・趣旨説明	(主催者)
	【第1部 知床の保護管理体制】			
	13:10-13:40	30	講義1-1 知床世界自然遺産からの出発	渡辺綱男
	13:40-14:10	30	講義1-2 知床世界遺産地域管理体制の現況	渡邊雄児
	【第2部 科学的管理システムの構築とその理論】			
	14:20-15:10	50	講義2-1 管理体制構築と科学委員会が果たした役割	桜井泰憲
	15:30-16:20	50	講義2-2 モニタリングと順応的管理	松田裕之
2月6日 (日)	16:30-17:20	50	講義2-3 知床エコツアーリズム戦略と合意形成システム	敷田麻実
	【第3部 科学的保護管理の実際と現地業務の展開】			
	10:00-10:50	50	講義3-1 エゾシカ個体群管理による植生回復	宇野裕之
	11:00-11:50	50	講義3-2 河川工作物の改善による生態系復元	中村太士
	13:00-13:50	50	講義3-3 ヒグマと利用者・住民のマネジメント	石名坂豪
	14:00-14:50	50	講義3-4 利用調整の実際と資源価値・満足度の向上	秋葉圭太
	【第4部 総合質疑とディスカッション】			
15:10-16:10	60	4-1 総合質疑とディスカッション	梶光一（コーディネーター）	
16:10-16:20	10	主催者挨拶	(主催者)	

2月5日 (土)

第1部 知床の保護管理体制

講義1-1 知床世界自然遺産からの出発

渡辺 綱男 講師

世界遺産条約の基本的な説明に始まり、海域の管理の強化や河川工作物の改善など、知床の世界遺産登録にあたってIUCNから提示された課題やその後の対応を中心に話をいただきました。自然保護によって自然だけでなく地域の人々の未来がより良いものになっていくことを目指す必要がある、という重要な視点をお示しいただきました。

講義1-2 知床世界自然遺産地域管理体制の現況

渡邊 雄児 講師

知床を保護するための法的な担保措置や、科学委員会とそのワーキンググループにおける活動、各種計画など、今日の知床の管理の仕組みを学習しました。また遺産地域の管理者や行政機関、関係組織からなる知床の管理体制の詳細や各組織が果たしている役割などを説明していただきました。

第2部 科学的管理システムの構築とその理論

講義2-1 管理体制構築と科学委員会が果たした役割

桜井 泰憲 講師

世界遺産登録の過程で重要な役割を果たした科学委員会の対応の詳細や、漁業者自身が行っている水産資源管理の取り組みを解説していただきました。加えて水産資源の保護と利用の両立のための指針となっている「多利用型統合的・海域管理計画」や「長期モニタリング計画」について紹介していただき、また知床海域の水産資源の変化に関する最新のデータを示していただきました。

講義2-2 モニタリングと順応的管理

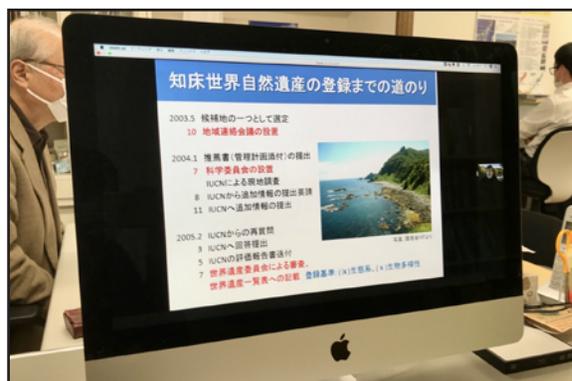
松田 裕之 講師

不確実性・非正常性・複雑性といった生物資源管理における基本的な考え方と管理に用いられている数理モデルなどを示していただいたあと、Feedback制御や順応学習、合意形成など順応的管理の基本的原則を学習しました。後半は知床の自然保護管理に導入されている広義の順応的管理の様々な事例と課題を示していただきました。

講義2-3 知床エコツーリズム戦略と合意形成システム

敷田 麻実 講師

エコツーリズムに関する基礎的な知識を押さえた上で、知床の利用に関するルールづくりの基盤となっている「知床エコツーリズム戦略」の策定背景としくみを解説していただきました。またコントロールとマネジメントとの違いを整理し、どうすれば考え方や立場の異なる関係者をマネジメントできるのか、最新の研究成果も交えてご紹介いただきました。



2月6日 (日)

第3部 科学的保護管理の実際と現地業務の展開

講義3-1 エゾシカ個体群管理による植生回復

宇野 裕之 講師

ニホンジカの分布・生態についてお話しいただいたあと、エゾシカ分布の歴史の変遷とフィードバック管理の考え方を導入した「北海道エゾシカ管理計画」について解説していただきました。また知床におけるエゾシカ管理の展開、特に知床岬における密度操作実験に至る経緯と実験による植生回復の効果をお話しいただきました。

講義3-2 河川工作物の改善による生態系復元

中村 太士 講師

流況・土砂動態・河畔林動態の結びつきや攪乱遺産、順応的管理といった河川生態系回復の取り組みにおける重要な考え方を学習しました。また影響評価に基づく知床の河川工作物の改良例と産卵状況の変化などその効果を紹介していただき、近年「自然と対峙せず自然と共に変化する技術へ」と河川工作物に対する考え方が変化していることを教えていただきました。

講義3-3 ヒグマと利用者・住民のマネジメント

石名坂 豪 講師

知床におけるヒグマと人間との軋轢の現状と、電気柵の設置やヤブの刈り払い、普及啓発活動など多岐にわたる対策活動、またヒグマの行動段階やゾーニングを取り入れた「知床半島ヒグマ管理計画」のしくみを解説していただきました。その上で種々の対策にもかかわらず、人間側の行動をうまく管理できていないことなど、ヒグマをめぐる管理の難しさをお話ししていただきました。

講義3-4 利用調整の実際と資源価値・満足度の向上

秋葉 圭太 講師

知床五湖が従来抱えていた課題と利用調整地区制度を上手に活用するための仕掛けをお話しいただき、また近年新たに取り組んでいるマイカー規制の事例もご紹介いただきました。いずれの取り組みも単なる規制ではなく魅力と満足度を高めていくためのしくみが必要であることを学び、「入り口は観光、出口に保全」というキーワードをいただきました。

第4部 総合質疑とディスカッション

4-1 総合質疑とディスカッション

梶 光一 講師 (コーディネーター)

各講義や全体に対する質疑に加え、受講者の皆さんが各現場で抱えている課題やこれからの野生動物管理教育に期待することについて意見交換がされました。遺産管理の根幹に関わる質問も飛び出すなど、予定終了時刻を超えて熱い議論が交わされました。



オンライン講義のアンケート結果

今回の参加者42名のうち、34名の方からアンケートのご協力をいただきました。
集計結果の概要や自由回答の一部をご紹介します。

ご回答いただいた方の性別

男性:20名 女性:14名

ご回答いただいた方の年齢

20代:12人 30代:5人 40代:7人 50代:3人 60代:3人

ご回答いただいた方のお住まい

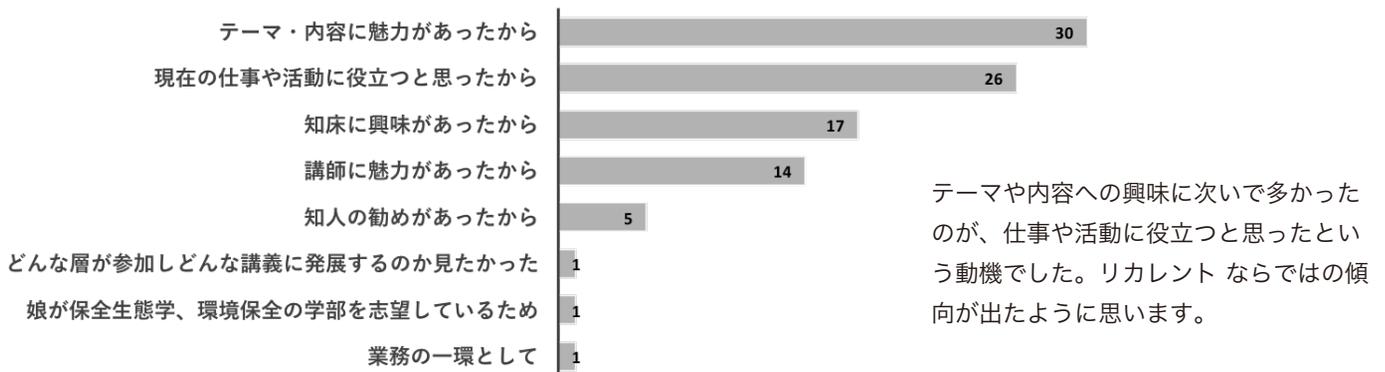
北海道 18名	東京都
長野県 3名	神奈川県
沖縄県 3名	山梨県
岩手県 (以下1名)	岐阜県
福島県	大阪府
群馬県	京都府

ご回答いただいた方のご職業

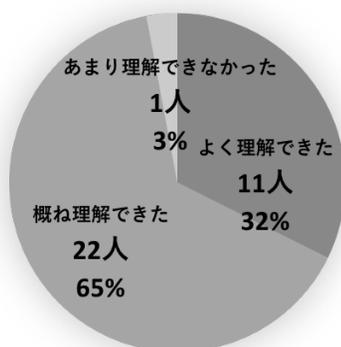
公務員	文筆・編集業	自然保護NGO
会社員	林野庁職員	観光協会
団体職員	獣医師	通訳ガイド
ネイチャーガイド	環境調査員	野生動物担当
フリーランス	町役場職員	金融関係
国家公務員	臨床検査技師	非常勤講師
大学技術職員	大学教員	

様々な年代・お住まい・ご職業の方にご参加いただきました。

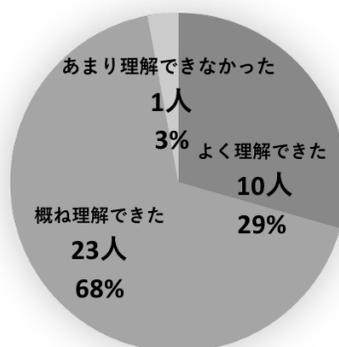
参加を決めた理由は何ですか？



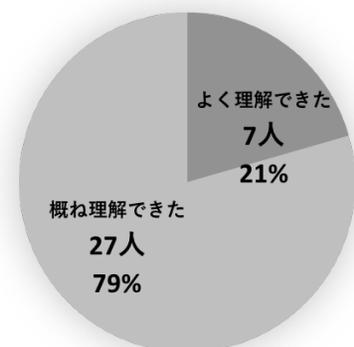
知床の管理のしくみを理解できましたか？



知床の管理のしくみがどのような考え方に基づいているか理解できましたか？

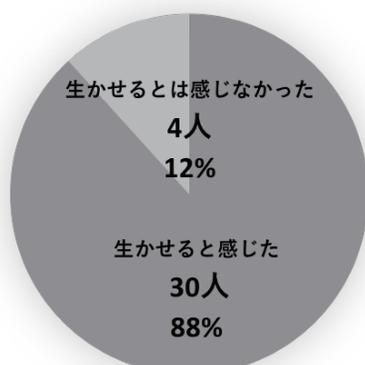


知床の管理のしくみが各現場でどう運用されているか理解できましたか？



講義はかなり専門的な内容にまで及びましたが、ほとんどの方から理解できたとの回答をいただきました。

講義内容は実務に生かせると感じましたか？



受講した多くの方に、実務に生かせる内容であったと感じていただけたことを実感しました。

生かせると感じた点(一部抜粋)

- ・知床地域の先進的な取り組み事例が、自身の現場にも還元できる場所があるのではないかと感じた。また、比較のなかから共通課題の認識することで、現場の課題感がより明確になったと感じる。
- ・松田先生の順応的管理の考え方は、野生動物問題を考える基本となると思いました。また、石名坂さんによる現場の対策と課題について、クマ対策に関わるうえで大変参考になりました。
- ・敷田先生・秋葉先生：科学的管理も大事だが、新しい価値創造、地域の方々の幸せにつなげる視点が大事。ということ。
- ・設立間もない「西表財団」の運営や気持ちの持ちよう、竹富町が条例で定めた「観光案内人」(観光ガイド)に対するコミュニケーション方法など、すべての講義から学べることがありました。
- ・全ての講義が生かせると感じていますが、特に中村先生のご講義は現在担当している赤谷プロジェクト(PRJ)の溪流WGに、敷田先生のご講義は赤谷PRJをみなかみBRや谷川岳エコツーリズム推進協議会、地域の観光業とリンクさせていくために生かせると感じています。また、既に多くのアドバイスを頂いている梶先生や宇野先生からも改めて有意義なアドバイスを頂きましたので、実務に早々に反映したいと考えています。
- ・登山道整備にも携わる機会がありますが、ステークホルダーとの合意形成も時に難しいところもある中で、たくさん時間をかける。相手と何度も話をする。改めて、大切なことだと感じました。

生かせると感じなかった理由(一部抜粋)

- ・職業が自然や動物に関わるものではないので。けれど将来、自然に関わる事をしたいと考えているので、大変学ばせて頂きました。
- ・クマの管理やシカの管理など、地域に特化した問題であるため、北海道内であれば参考になったが、その他ではあまり関係ない話だと感じました。

今回のプログラムで印象に残った内容とその理由(一部抜粋)

- ・敷田先生から学んだ、地域マネジメントにおいて、関係者がハッピーになれるようにお互いの価値を認めるように促すファシリテーションが重要だというお話が印象に残っています。自らの責務を改めて言葉にさせていただいたように感じたことが理由で、肝に銘じて邁進したいと思いました。
- ・講義3-4において、自然を守るための規制に対して、魅力を対価として上げることが必要、というお話が特に印象に残りました。行政側と、地域の協力者と、地元住民とのバランスにつながる関連性を言語化したように思い、個人的に自然保護の考え方への参考になりました。
- ・現場に携わる方々の経験、知見を集中して得られる機会としてどの講義も得るものが大きかったです。皆様が長きにわたり取り組んできたこと、調査を継続してわかってきたこと、現在も続く様々な合意形成に向けた取り組みについて大変ありがたく思います。私の職業は情報通信で直接かかわることはなさそうですが、何か役に立てることがあるのだろうかと考えています。
- ・知床であっても地域住民が野生動物の問題行動を招きかねない行為(ゴミの投棄や電気柵の管理不足等)を無造作におこなうことがあるという点が印象に残った。人の数が多ければ多いほど問題を防ぐために必要なラインが守られないケースも増えるのだろうが、地域の方々に自発的に最低限のルールを気に懸けてもらうためにはどうすればいいのか、とても難しいと思った。また、テーマ的に妥当だとは感じてはいるものの、歴史を専攻しているため、近代以前の過去への言及がほとんどなかった点は個人的に印象深かった。

今後のプログラムにおいて参加してみたいと思う分野やテーマについて(一部抜粋)

- ・講義を通して、その取組を「伝えるための人づくり」も大事なように感じました。その担い手は「地元地域の方」が望ましいと思いますが、地域全体での意識醸成や知識の共有化、担い手育成など、人づくりに関する取組も学びたいです。
- ・講師陣に地元の利害関係者(漁業者・観光)特に合意形成にかかわる地域の方々の話を伺えるとありがたい。また、現場でぜひ話を伺ってみたい。
- ・自然(動植物)の保護について一人でも多くの人に関心を持ってほしい、また小さくても実行できる活動を知りたいので、これらに関わる題材・携わる方たちにご講演を望みます。
- ・自然保護とエコツーリズム、これに地元の経済を良くする観点もテーマに加えてもらえたら。
- ・特に環境教育について。担い手、鳥獣管理の人材育成に向けた教育普及活動など。
- ・保護管理だけでなく、知床の歴史(自然史、文化史、産業史) 100平方メートル運動の軌跡なども。
- ・猛禽類や植物など希少種保全の取組みや、北海道の担当者・林野庁など現場の人など様々な行政関係者の話を聞いてみたいと思った。
- ・管理体制が出来上がった後の現在の話ばかりでなく、当初の合意形成を図る段階の話も聞きたい。現状の話は雲の上の話であり参考にならない。

今後のプログラムにおいて参加してみたいと思う分野やテーマについて(続き)

・現代において人と野生動物との共存を目指すにあたり、過去の状況をどのように分析・理解し、知見を反映させるべきなのか。そうした「過去に学ぶ」ことは、どの程度/どのような効果があるのか。単なる「ロマン」や「理想」だけをピックアップするのではなく、野生動物と「隣人」として付き合っていくうえで、地域における関わりや歴史は地域の人々の考えに何か影響する部分があるのかどうか(歴史学を学ぶ身としては意味があると思っているのですがバイアスがあるとは感じているので、現場ではどのように考えられ、利用・活用されているのか知りたいと思いました)

・職場でふれあい教室や自然観察会などを主宰する機会があるため、その際のプランニングやガイドをする上での、コツや工夫を学べる機会があれば参加したい。また、管内にはシマフクロウやオジロワシの営巣地があるのですが、今後数が増えた際にどう森林整備と保護を両立していくのかという将来的な問題について個人的に考えているので、野生動物との折り合いのつけ方や、うまい棲み分けの方法があれば学びたいと思います。

当財団に対する要望や期待について

・とても充実した内容でしたが、2日間にみっちりだったので、定期的(たとえば月1回)などで開催されると嬉しいと思いました。

・知床が基本とは思いますが、出張講義のような形で色々な地域とつながるような取組もご検討頂けると幸いです。

・実際に管理に当たることとなる猟友会の若手など、もう一段噛み砕いた内容の講義があるとより良いと思います。或いは、噛み砕いていくために一緒により分かりやすいツールを作る仲間や場が作られると有難いと感じました。

・保護管理を進める上で必要となる現場力(石名坂様が話されていたようなクマ対応など)・調査解析スキル・普及啓発・合意形成の進め方などを総合的に学べる年間プログラムがあれば是非参加したい。

・この数年でこそ地方創生・移住や農業が流行のようになっているが、本来は幼少期から生活の周囲に動植物がいて共存するのが当たり前の文化を築かなければならない。私も非常勤講師として大学・高校生を指導しているが、それらが他人事のような無関心な子供が多くて危惧している。私ももっと学び、私が子供たちへ広められるように学びたい。

・新しい人材育成のため、周辺住民に対する教育普及活動やシンクタンク事業も活発に行われることを期待します。様々な立場の人が参加できる大学になってほしいです。

・要望ではなく期待として、参加申し込みの際に講師の中に女性が含まれていなかったことが少し気になったため、現地で活躍している研究者がいれば話を聞いてみたかった。

今後の事業を考える上で大変参考になる意見を数多くいただきました。
ご回答いただいた受講者の皆様、どうもありがとうございました。

■ 理事会報告

<令和3年度第6回理事会>

開催日時：2022年3月13日（火）午後7時～

開催方法：オンライン会議システムを使ったWeb理事会として開催

- 決議事項**
- 1 第1号議案「令和4年度（2022年度）事業計画（案）」承認の件
 - 2 第2号議案「令和4年度（2022年度）収支予算（案）」承認の件
- 報告事項**
- 1 代表理事・業務執行理事の業務報告
 - 2 「知床ネイチャーキャンパス・リカレント2022（オンライン講義）」の開催結果
 - 3 賛助会員の加入状況・募金の状況
 - 4 資金獲得戦略ワーキンググループ・各分会報告
- 協議事項**
- 1 令和4年度の事業展開と資金獲得戦略について

知床自然大学院大学設立財団のおすすめ本紹介



生物から見た世界

J. ユクスキュル、G. クリサート著（日高敏隆、羽田節子訳）

岩波書店（2005年）720円＋税

私たちはともすると、普段私たちの前に現れているただ一つの世界のみが厳然と存在しているかのように考えがちです。しかし、著者の一人であるユクスキュルは以下のように読者に語りかけます。「野原に住む動物たちのまわりにそれぞれ一つずつのシャボン玉を……思い描いてみよう。われわれ自身がそのようなシャボン玉の中に足を踏み入れるやいなや、これまでその主体のまわりにひろがっていた環境は完全に姿を変える。……それぞれのシャボン玉のなかに新しい世界が生じるのだ」。

このシャボン玉、すなわちそれぞれの動物たちが知覚している固有の世界をユクスキュルは「環世界 Umwelt」と呼びました。本書では様々な動物たちの、様々な世界に対する知覚のあり様が紹介されますが、その冒頭を飾るのがマダニの環世界です。私たち人間には豊かに映っているこの世界から、マダニはただ3つの信号、すなわち哺乳類が発する酪酸の匂い、体毛が与える手触り、そして体温の温かさのみを受け取っているにすぎず、それゆえにマダニを取り巻く環世界は人間のそれと比較して極めて単純なものである、とユクスキュルは論じています。

原著の出版は80年以上前ですが、その面白さは折り紙付きで、生物学とは程遠い学部には当時の私も強く魅了されました。もう一人の著者であるクリサートによる図版が豊富に挿入されており、読者の理解を深めることに貢献しています。200ページ弱の文庫本ということで手に取りやすく、若い世代にもおすすめです。

（事務局・船木大資）

知床自然大学院大学設立財団は、 活動を支援して下さる **賛助会員、寄附金** を募集しています

当財団の事業は皆様から寄せられた浄財によって実施されています。何卒、一層のご支援、ご協力をよろしく願いいたします。なお、当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人です。当財団への寄附金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄附金として税法上の優遇措置が適用されます。法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄附金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

■賛助会員とは

この財団の目的に賛同する個人・団体・法人が会費を通じて支援するものです。

■会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員：5,000円

団体会員：10,000円

法人会員：20,000円

法人特別会員：100,000円

■加入申し込み方法

「申込書」と「郵便振替用紙」をご使用ください。これらは当財団ホームページからプリントアウトできます（入金は右記口座への入金でも受付しています）



知床自然大学院大学設立財団ホームページ

賛助会員・寄附金募集ページ

<http://shiretoko-u.jp/supporter/>

■賛助会員の特典

当財団のニュースレターや絵はがき、講演会やネイチャーキャンパス等の案内情報をお送りします。

■寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■税制優遇について

当財団への寄附金・賛助会費には税制上の優遇措置があります。

■主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号19940（普）10138691

（※他の金融機関から 店名九九八 番号1013869）

北洋銀行斜里支店 店番452（普）3119440

北海道銀行斜里支店 店番904（普）0530326

網走信金斜里支店 店番003（普）0284957

大地みらい信金羅臼支店 店番003（普）1072873

設立財団ニュースレター 第26号

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117 北海道斜里郡斜里町青葉町 28-10

TEL 0152-26-7770 FAX 0152-26-7773 E-mail sizendaigaku@wine.plala.or.jp

Web <http://www.shiretoko-u.jp>

発行日 2022年 5月 20日